

【香南市】
校務 DX 計画

1. 校務 DX における現状について

香南市（以下「本市」という。）では、令和2年度から校務用端末に統合型校務支援システムを導入し、グループウェアを用いて校務の管理や情報伝達・共有のデジタル化を推進し、不必要な手入力作業の軽減等を図ってきた。また、同年度に「GIGA スクール構想」を踏まえ、1人1台の端末の整備に合わせて、すべての児童生徒と教員にアカウントも付与し、クラウド環境を活用した教育の情報化への推進も図ってきた。

2. 「校務 DX チェックリスト自己点検結果（以下「自己点検結果」という。）」における結果、課題について

令和5年11月に実施された「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果（学校向け）」（文部科学省）の達成状況の速報値では、本市は393.1点、高知県全域は368.2点と高知県全域を24.9p上回っている状況である。

しかし、以下の質問項目において校務DXが進んでいない状況が認められるため、学校と連携しながら改善を図る必要がある。

（1） 更なるクラウド環境の効果的な活用

本市は、すべての児童生徒と教員に Google Workspace for Education を利用できるようアカウント（個人メールアドレス）を付与しており、クラウドサービスを活用できる環境を構築している。

自己点検結果では、「学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。」「保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。」「児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。」「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか」「授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。」「長期休業期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。」について課題が認められる。

（2） FAX でのやり取り・押印の見直し

自己点検結果では、全ての学校で FAX が使用されている。教育関係機関以外の事業者や各種団体等を除く場合には、電子メールやクラウドサービスの活用を推進していく。また多くの学校では、保護者・外部とのやりとりで押印・署名を必要している書類があると回答していることから、積極的に慣例や慣習を見直す姿勢に立ち、押印・署名の廃止とともに、順次クラウドサービス等への移行を推進していく。

（3） 各種資料等のペーパーレス化

本市が主催する教職員対象の研修会の一部は、紙媒体での資料の配付を行っているが、

今後は電子メールやクラウド環境を活用し、事前に電子媒体で配付・共有するなどして、ペーパーレス化を強く推進する。合わせて、学校と保護者とのやり取りも同様に電子メールやクラウド環境を活用した方法に順次移行していくようにする。

3. 次世代校務 DX 環境の検討について

高知県下での次世代校務支援システムの導入に対応するため、多要素認証・アクセス制御技術等のセキュリティ対策に関する国や他の自治体の動向を注視しつつ、本市で運用する情報セキュリティポリシーの見直しや、ネットワーク統合の在り方を検討する。